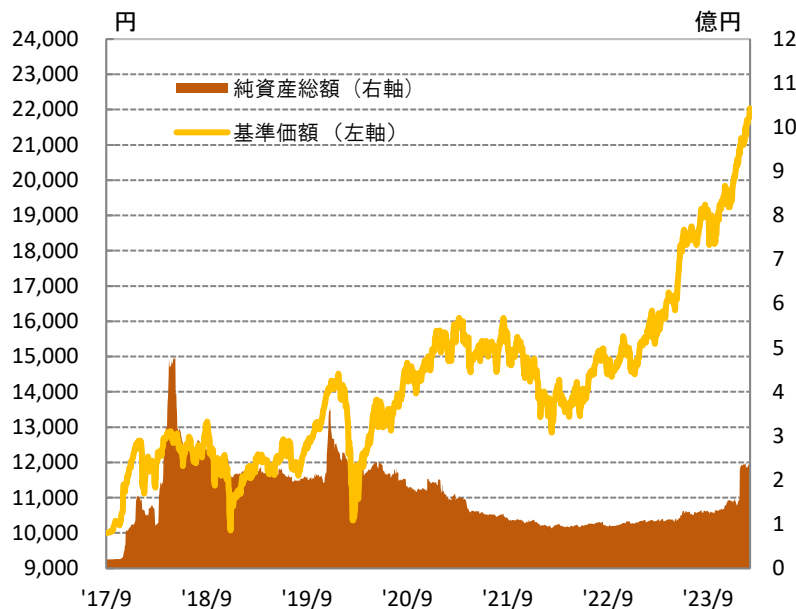


パフォーマンス

データ基準日：2024年2月29日

基準価額	22,032円
前月末比	+848円
純資産総額	2億3,682万円

期間別騰落率(%)					
1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
+4.0	+11.1	+17.4	+38.7	+48.2	+120.3



分配金 (1万口当たり、税引き前)	
第2期	0円
第3期	0円
第4期	0円
第5期	0円
第6期	0円
設定来累計	0円

資産構成(%)			
株	式	86.6	
そ	の	他	13.4
合	計	100.0	

市場別比率(%)		
東証プライム		65.8
東証スタンダード		19.7
東証グロース		1.1
現金等		13.4
合	計	100.0

※資産構成・市場別比率・組入比率上位10業種の比率は当ファンドの純資産に対する比率です。

組入比率上位10業種(全20業種中)	
情報・通信業	12.1%
化学	10.8%
卸売業	7.4%
不動産業	6.1%
その他製品	6.1%
サービス業	6.0%
小売業	5.1%
ガラス・土石製品	4.9%
機械	4.5%
金属製品	4.3%

ファンドの特色・投資方針

1	わが国の中小型株を中心に成長性の高い銘柄などに幅広く投資します。
2	中小型株の投資魅力である企業の成長性に主として着眼し、また、割安な企業、変化する企業を選別します。
3	中長期的観点からの投資を基本としますが、企業の経営姿勢や業績の変化、株価水準等から総合的に判断し、個別銘柄に対する投資比率の調整を行います。
4	数倍化する可能性のある銘柄の発掘に努めます。

【設定・運用】

TORANOTEC投信投資顧問株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第384号
(審査NO.2024-1-012)

【ファンドに関する照会先】

ホームページ <https://www.toranotecasset.com>
電話番号 03-6432-0782(受付時間:営業日の9時~17時)

市況

日経平均は34年ぶりに史上最高値更新。新興・中小型株は、出遅れ感から月末に見直し買いで大幅高。

2月の株式市場は、堅調な企業業績や株主還元の拡充に加え、米主要株価指数の最高値更新などを背景に、海外投資家の見直し買いが入り、22日に日経平均株価は34年2カ月ぶりに史上最高値を更新しました。米半導体大手のエヌビディアの市場予想を大幅に上回る好決算をきっかけに、日経平均への寄与度の大きい値がさの半導体関連株や大型株が相場の上昇をけん引しました。新興・中小型株は、日経平均株価が上昇する中、成長期待の高い銘柄の多い東証グロース市場250指数は上旬まで横ばいで推移していましたが、その後、大型株と比べた出遅れ感から見直し買いが入り、月末にかけて大幅高となりました。

当ファンドの運用においては、今期業績は大幅減益予想ながら今後需要拡大が見込まれるパワー半導体関連銘柄を新規に買い付ける一方、保有銘柄の持ち高調整売りをを行い、2月末の株式組入比率は86.6%となりました（前月末：85.5%）。主要投資対象指数の騰落率（前月末比）は、中型株指数：+2.3%、小型株指数：+3.2%、グロース250指数（旧東証マザーズ指数）：+8.5%となりました。

運用方針

出遅れ中小型株の物色を予想。今後IPOは、選別投資が増加。最高値銘柄調整と株主還元・経営改革に注目。

日経平均株価は34年ぶりに史上最高値を更新した後、3月4日に初めて4万円台に乗せました。昨年末からの上昇率は約20%と上昇ピッチがやや速く、過熱気味の相場となっています。米国株式市場では「マグニフィセント・セブン（壮大な7銘柄）」という超大型ハイテク7銘柄が相場を先導し、日本においても値がさの半導体関連株が相場をけん引し、一部の銘柄群に資金が集中するなど物色に偏りがみられます。今後、先駆した銘柄の上昇が一服してくれば、出遅れ感のあるバリュー（割安）株などに物色が広がることが予想されます。ただ、急ピッチの上昇に対する高値警戒感や、心理的な節目の4万円台に乗せたことでスピード調整も考えられます。半面、日経平均株価の最高値更新を受け投資家心理が強気に傾いており、下げる場面では押し目買いが見込まれることや、3月期末の配当権利取りや新NISAの買いなどが相場を下支えそうです。今月は春闘や日銀の金融政策決定会合など重要なイベントを控え、高値圏にある株式相場の変動率が高まることも予想されます。新興・中小型株は今年に入り、大型株の上昇に比べて見劣りしていますが、株高により個人投資家の投資余力が高まっており、出遅れ感のある中小型株を物色する動きが出てくるものと予想しています。例年、3、4月は新規公開（IPO）銘柄数が各10～15銘柄と比較的多く、規模は小粒でも事業の新規性や好業績で成長が見込める企業への選別投資が増えそうです。

運用においては株価上昇で最高値圏にある銘柄の持ち高調整を行いながら、保有銘柄の買い増しや、自社株買い・増配など株主還元の強化や資本効率の改善など経営改革に取り組む企業などに注目いたします。また、中長期投資を基本としつつも、環境の変化に対応できるよう心掛けてまいります。

ファンドマネージャーの視点（組入比率上位10銘柄）（全48銘柄中）				
No.	銘柄名	銘柄コード	市場	業種
1	中央自動車工業	8117	東証スタンダード	卸売業
組入比率 4.0%				
1946年設立、クーラー事業から用品販売を経て、自社で開発した商品・サービスを販売する開発型企业へと転身。ボディーコーティング製品の開発・販売を中心とした「ケミカル事業」、「アルコール検知器事業」、自動車部品の輸出入を行う「自動車用部品事業」を展開。国内14拠点、地域密着営業のサービス体制。海外拠点は10カ国、世界60数か国とのビジネスネットワークを持つ。				
2	大阪ソーダ	4046	東証プライム	化学
組入比率 3.9%				
電気分解技術を基礎化学品、機能化学品、ヘルスケア（医薬中間体）、環境関連など幅広く展開。機能化学品の多くは原料から一貫生産によってグローバルニッチトップ商品数多く保有。ヘルスケア事業において医薬品精製材料シリカゲル（世界シェアトップ）が糖尿病や肥満症治療薬の精製用途として使用され需要が急拡大し収益のけん引役に。				
3	前田工機	7821	東証プライム	その他製品
組入比率 3.5%				
河川、道路補強等の防災用建築・土木資材の大手。公共事業向けの土木資材が好調。ドイツの塗装工場の本格稼働、原材料費の高騰は製品価格に転嫁。子会社BBSジャパン（自動車ホイール）は自動車レースのF1（フォーミュラワン）にホイールを独占供給（22年から4年間）。				
4	サンフロンティア不動産	8934	東証プライム	不動産業
組入比率 3.4%				
不動産の売買、賃貸仲介からビル管理、改修工事へ展開。都心オフィスビル事業（都心5区を中心に）を中核にホテル事業（開発・再生・運営）、海外事業（ベトナムやインドネシアにおける住宅など）へと事業領域を拡大。				
5	フジマック	5965	東証スタンダード	金属製品
組入比率 3.0%				
1950年設立の総合厨房設備機械メーカー。全国65拠点と中国や東南アジアにグループ企業。企画設計・開発・製造・施工・アフターメンテナンスまでトータルサポート。食器自動仕分けロボットや自律移動搬送ワゴンなど省人化設備の引き合いも増加。				
6	クイック	4318	東証プライム	サービス業
組入比率 2.9%				
人材サービスの総合企業。建設や看護師など採用難易度が高い業種など特定領域の人材紹介を主軸に人材派遣・広告などを展開。新型コロナ禍2年経て人材紹介の需要が拡大、新たな特定領域（IT関連・開発など）や海外での人材紹介を拡大。				
7	ノリタケカンパニーリミテド	5331	東証プライム	ガラス・土石製品
組入比率 2.8%				
1904年に洋食器の製造を目的に創立。研削砥石トップ。食器の製造技術で培った独自のコア技術を磨き、研削・研磨工具、セラミック原料や電子ペーストなどの部材、加熱、混練などの製造装置メーカー。2024年に創立120周年を迎えるが、組織風土を改革するために若手を積極的に登用し、年功序列からの脱却を目指す考え。				
8	毎日コムネット	8908	東証スタンダード	不動産業
組入比率 2.7%				
学生専用マンションの開発・運営。学生専用マンションを地主に提案、一括で借り受けるサブリースを主体に自社物件も展開。18年間連続満室でスタート。業界初の省エネ性能表示制度の学生寮完成。学生の課外活動や就職事業なども展開。2022年、上場20周年を機に会長などが保有する14万株を全職員に無償譲渡。22/12月全社員給与平均4.99%のベースアップ実施。				
9	SWCC	5805	東証プライム	非鉄金属
組入比率 2.6%				
総合電線・ケーブルメーカー。政府の再生可能エネルギーの利用拡大に向けた送配電網整備計画が進む中、今後変電所の電力設備の更新や増強が見込まれ、同社の変電所用電力ケーブルの接続部品「サイコネックス」は小型・軽量で取扱いが容易なため需要増が見込まれる。				
10	カンロ	2216	東証スタンダード	食料品
組入比率 2.5%				
創業112年を迎えるキャンディーメーカー。キャンディ市場全体でトップシェア。キャンディ市場全体の構成別では飴36.1%、グミ31.5%。ただ、市場の伸び率では飴+13.3%に対してグミ+24.1%と大きく拡大。同社はグミを成長エンジンとし、生産能力を約14%増加させる計画（松本工場24年10月稼働予定）。				

※組入比率は当ファンドの純資産に対する比率です。

当ファンドにかかるリスクについて

当ファンドは、株式や公社債など値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、ファンドは、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。

※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

- ① 株価変動リスク... 株式市場が国内外の政治、経済、社会情勢の変化等の影響を受けたり、また株式の発行企業の業績悪化、信用状況の悪化などで、基準価額が下落する可能性があります。
 - ② 金利変動リスク... 金利変動により債券価格が変動するリスクをいいます。一般に金利が上昇した場合には、債券価格は下落し、当ファンドの基準価額が下落する可能性があります。
 - ③ 信用リスク..... 公社債および短期金融商品の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利息や償還金をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなるリスク（債務不履行）をいいます。
 - ④ 流動性リスク..... 有価証券等を売買しようとする場合、需要または供給がないために、有価証券等を希望する時期に、希望する価格で、希望する数量を売買することができないリスクをいいます。
 - ⑤ 投資信託に関する一般的なリスク
 - ⑥ 運用体制の変更ならびに運用責任者の交代に関するリスク
- 当ファンドのリスクは上記に限定されるものではありません。

お客さまにご負担いただく費用について

直接的に負担する費用

購入時手数料	取得申込受付日の基準価額に、 3.30%（税抜3.00%） の率を上限として、販売会社が別に定める手数料率を乗じて得た額とします。申込手数料の詳細につきましては、販売会社にお問い合わせください。
換金時手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 （信託報酬）	ファンドを保有している期間、保有している金額に対して 年率0.88%（税抜0.80%） 。 （配分（各税込）：委託者0.4235%・販売会社0.4235%・受託者0.0330%）
その他の費用 ・手数料	信託事務の処理に要する諸費用（監査報酬、目論見書等の印刷費用等を含みます。） 有価証券売買時の売買委託手数料等 ※その他費用については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

ファンドの概要

設定日	2017年9月29日
決算日	年1回 7月20日（休業日の場合は翌営業日）
信託期間	無期限
収益分配	決算日に収益分配方針に基づいて分配を行います。

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位 ※詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※ファンドの基準価額は1万口当たりで表示されます。
換金単位	最低単位を1口単位として販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込締切時間	原則として、営業日の午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。

委託者、その他関係法人		
委 託 者	TORANOTEC投信投資顧問株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第384号 加入協会:一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 (投資信託設定、投資信託財産の運用指図等を行います。)	
受 託 者	株式会社りそな銀行(再信託:株式会社日本カストディ銀行) (投資信託財産の管理業務等を行います。なお、信託事務の一部につき、株式会社日本カストディ銀行に委託することができます。)	
販 売 会 社	下記、販売会社一覧をご参照ください (受益権の募集・販売の取扱い、一部解約の実行の請求ならびに償還金および一部解約金の支払い等を行います。下記表は当ファンドの販売会社の一覧表です。)	

販売会社一覧						
販売会社名	登録番号	日本証券 業協会	一般社団 法人日本 投資顧問 業協会	一般社団 法人金融 先物取引 業協会	一般社団 法人第二 種金融商 品取引業 協会	一般社団 法人日本 STO協会
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○	○
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第44号	○		○	○	○
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号	○		○		
香川証券株式会社	金融商品取引業者 四国財務局長(金商)第3号	○				
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○	○
TORANOTEC投信投資顧問株式会社※	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第384号		○			

※新規取得のお申込みは現在取扱っておりません。

当資料は当該ファンドに関する運用状況の情報提供を目的として、TORANOTEC投信投資顧問が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は信頼できる公開情報に基づいて作成されたものですが、その情報の確実性あるいは完全性を保証するものではありません。また、当資料の運用実績・データ等は過去のものであり、将来の市場環境の変動やファンドの値動き等を保証するものではありません。当資料は事前の通知なしに内容を変更することがあります。投資信託は、株式など値動きのある証券等に投資をしますので基準価額は変動し、また元本が保証されているものではありません。これらの運用による損益は全て投資家の皆様に帰属します。当ファンドのお申し込みの際しましては、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。